

## モザンビーク時事情報（2015年9月）

## 1. 野党レナモ党首への襲撃事件

9月12日、マニカ州シモイオ市から約15kmに位置するChibataにおいて、野党レナモ党首が乗車していた車両が銃撃を受け、運転手等が負傷する事件が発生した。同行していた Agencia Lusa と SAVANA 紙のジャーナリストは、同日19:00過ぎに警察部隊の Rapid Intervention Unit より襲撃があったと報道し、レナモ党は、ドラカマ党首が Rapid Intervention Unit によって襲撃されたと発表した。ドラカマ党首は、その後、襲撃から逃れて、シモイオ市の自宅まで徒歩で帰宅したと報道されている。マニカ州の警察長は、レナモ党首への銃撃があったことは報告したものの、警察部隊による銃撃を否定した。フレリモ党のスポークスマンは、レナモ党首への襲撃はなかった、レナモ党によるでっち上げであると報道し、銃撃の事実そのものを否定した。マニカ州では、元内務大臣であった Alberto Mondlane が知事として就任している。

9月25日には、同じくマニカ州の Amatomas にて、レナモ党首の防衛隊と警察・軍隊との間で銃撃戦が発生し、20名以上の死者が出たと報道された。マニカ州警察長の Armando Canhenze は、レナモ党首のドラカマを乗せたレナモ党部隊が、民間人のミニバスの運転手に対して停止命令を出し、その後、運転手を銃殺した、と発表した。警察部隊は、治安回復のために出動して、レナモとの銃撃戦に応じた、また、19名のレナモ部隊が死亡したと発表した。しかしながら、ミニバスの乗客は、レナモ党首を防衛していた防衛隊ではなく、何者かが道路から発砲した、と目撃している。ドラカマ党首の無事は確認されたが、この事件以降、ドラカマ党首の滞在先は不明となっている。本件は、ニュシ大統領が国連総会に出席のためアメリカを訪問中に発生したため、フレリモ党内の過激派による影響ではないか、とも報道されている。

最初のレナモ党首への銃撃事件の後には、アメリカ大使館が暴力の行使を否定する声明を出した。EUは、2度のドラカマ党首への攻撃は、モザンビーク国の民主主義と安定を阻害する、との声明を出した

([http://eeas.europa.eu/delegations/mozambique/press\\_corner/all\\_news/news/2015/20150928\\_01\\_en.htm](http://eeas.europa.eu/delegations/mozambique/press_corner/all_news/news/2015/20150928_01_en.htm))。

ドラカマ党首は、和平の日である10月4日にマプトに出てくること（ニュシ大統領との会合）を準備していたとの報道があったが、上記2件の銃撃事件のため、ドラカマ党首のマプト訪問はなかった。レナモ部隊による報復の可能性が指摘されていたが、ドラカマ党首は、戦争の手段はとらず、交渉による和平を求めている。第2回通常国会は、10月21日から開始して25の議題が議論される予定であり、レナモが提案していた自治州の創設のための憲法改正や、EMATUM 問題に関する委員会の設立等が討議される予定である。

## 2. マニカ州での石炭探査

マニカ州 Mossurize において、日本のコンサルタント会社が石炭の埋蔵量調査を実施している。マニカ州鉱物資源エネルギー局長の Olavo Deniasse は、石炭埋蔵量の確認が取れば、2016年から石炭探査を開始することになると発言している。マニカ州の炭鉱からベイラ港までの輸送は、シモイオ市と Mossurize を結ぶ N260 号線（230km）とベイラーマチパンダ間の鉄道によって輸送されることが計画されている。

## 3. ダイヤモンド、希少金属、宝石の商業化準備

モザンビーク政府は、ダイヤモンド、希少金属及びの商業化に関する規則を承認した。また、政府は、キンバリープロセス、希少金属及び宝石に関する管理ユニットを創設する法令を

承認した。ジンバブエ国境付近のサビ川流域においては、オーストラリアの「Diamond Save Project」において、ダイヤモンドが発見されている。

#### 4. ベイラ回廊の鉄道敷設計画

モザンビーク鉄道港湾公社（CFM）、ジンバブエ国営鉄道、ザンビア鉄道会社がベイラで会議を開催し、ベイラ港を起点とするベイラ回廊において、高速貨物鉄道を運行する計画が議論された。CFM会長のVictor Gomesは、「例えば、ベイラ港からザンビアまで肥料を輸送して、ザンビアから銅を輸送する高速鉄道を計画している」と発言している。

#### 5. メティカル通貨の下落

ドル及びランドに対するメティカル通貨の下落が続いている。2015年1月時点では、1ドル31.58メティカル（モザンビーク銀行）であったが、2015年9月には、1ドル40メティカル（モザンビーク銀行）まで下落した。マプト市内の両替所では、1ドル45～47メティカルで交換されている。モザンビーク中央銀行は、メティカル安の原因として、ドル通貨の上昇、モザンビーク輸出品目の価格の下落、国内の政治的不安定を挙げている。一方、エコノミストは、経常収支の悪化、財政の悪化（債務の増加）をメティカル安の原因として挙げている。2015年9月現在、最近のメティカル安による物価の上昇は特にみられないが、衛星テレビ料金等のドル建てで決済している商品については、約5～10%の料金値上げが生じている。

#### 6. ベイラ港の開発

オランダ政府は、ベイラ港アクセス道路と低価格住宅への支援のため、250百万ドルを拠出する。9月17、18日に開催されたベイラ投資会議において、ベイラ市長は、オランダ大使館がベイラ港アクセス道路の建設のため、250百万ドルの支援を行うことを誓約したと発言した。CFM CentralのCandido Jone理事は、ベイラ回廊の開発の4本柱として、1）石油ターミナルの拡張、2）ベイラ港の拡張（第11埠頭の建設）、3）マチパンダ鉄道線のリハビリ、4）ザンビア、ジンバブエ、モザンビークを結ぶ鉄道の輸送強化を挙げている。

#### 7. エリア1のガス開発

ロブマ湾のエリア1の開発コンソーシアムは、LNGの探査及び生産のために230億ドルを投資することを計画している。開発コンソーシアムは、2020年の第1四半期にLNGガス生産を開始することを見込んでいる。年間1,200万トンのガスの生産から開始し、その後、年間2,000万トンのガスを生産することが見込まれている。

#### 8. カホラバッサ水力発電の電力生産の増加

カホラバッサ水力発電公社（HCB）は、2015年第1四半期の電力生産が8,431,337MWであり、昨年よりも11%の電力生産の増加があったと報告した。同時期には、インフラ近代化プロジェクトの実施が行われ、変電所の事前リハビリ（Pre-REABSUB）、アンローダーのリハビリ（REABDESC）、中央主変圧器のリハビリ事業が実施された。また、サビ川を通過する送電線の強化事業も実施された。

#### 9. EUのインフラ支援と一般財政支援の減少

モザンビーク駐在のEU大使は、今年初めの洪水被害により破壊された道路、橋梁、衛生施設、教育施設のリハビリのため、300百万ユーロを拠出すると発言した。今年の雨季の洪水被害により、モザンビーク政府は500百万ドルのインフラ整備が必要とされている。

また、モザンビークの一般財政支援グループ（G19）は、22か国から14か国に減少することとなった。一般財政支援グループは、オーストラリア、アフリカ開発銀行、世界銀行、カナダ、

スペイン、フィンランド、フランス、アイルランド、イタリア、ポルトガル、イギリス、スウェーデン、スイス、UE の 14 (G14) となった。一般財政支援の対外援助に占める割合は、全体の約 20% となり、今年度は 273 百万ドルを支援することになる。

#### 10. EMATUM 問題

モザンビークの NGO である予算モニタリングフォーラム (FMO) は、モザンビークマグロ会社 (EMATUM) が技術上破綻しており、事件に関与した指導者の刑事責任を要求している。ゲブーザ前大統領政権下で取決められた 850 百万ドルの商業ローンの債務者である EMATUM には、債務を返済するための生産活動がない、と指摘しており、行政裁判所と検察長官に対して、マグロ船とパトロール船の調達に必要であった契約金額 (200 百万ユーロ) と 24 隻の漁船購入として EMATUM が発表した 535.2 百万ユーロの金額との差異について、調査を行うよう要求している。また、FMO は、情報公開法に基づいて、EMATUM とフランスの CMN 会社との間で調印された契約書の公開を求めている。

#### 11. 国税庁長官人事

経済財務省傘下の国税庁 (Autoridade Tributaria) の長官として、Amelia Nakhare が任命された。前国税庁長官の Rosario Fernandes は、10 年間、国税庁長官として従事していた。Amelia Nakhare の前職は、経済財務省副大臣であり、汚職が多いと言われている税関の信頼性回復という課題がある。